

平成26年3月28日
環境ワーキンググループ事務局

地球環境観測の強化に係る取りまとめ意見

● データ活用を意識した取組みを推進

- －地球観測データについて測定のみでなくその先のユーザを考え、アウトプットからアウトカムへ持っていくような検討を実施すべき。
- －GOSAT 後継の地球観測データは多くの人に開放され、ユーザオリエンテッドに運営されることが重要。例えば、JCM（二国間オフセット制度）のMRV（測定・報告・検証）に適用したり、さらにグローバルな観点からより評価されるために、インベントリ精度が非常に悪い途上国の精度検証についても考慮すべき。
- －観測データと地球シミュレータなどで得られるシミュレーションデータの連携、または地上データと地球観測データの結合において JAMSTEC 等との連携も検討し、観測データを様々な媒体と統合することで利用しやすい環境の構築を今後考えていくべき。

《参考：AP 特定時における特記事項》

- －温室効果ガス観測衛星の運用・開発及び国別レベル二酸化炭素吸収排出量の推計を行い、世界的な気候変動予測に貢献し、極端気象等の防災減災に資する重要な施策である。
- －この分野では、我が国が最先端かつオンリーワンとして世界をリードしており、後継機では、有効観測点数の増加や人為排出量産出の精度向上を目指しており、更なる詩貢献が期待される。
- －「GOSAT-2」については、GOSAT に比べさらに温室効果ガス（二酸化炭素、メタンガス）の観測精度を向上させ、「GCOM-C」については、全球規模の雲・エアロゾル等の観測を実現し、ともに世界的な気候変動予測の高精度化に貢献することで、極端気象等の防災減災に資する重要な施策である。
- －なお、「GOSAT-2」は、環境省が「既存技術の活用と環境行政ニーズ」の観点から、文科省が「先進的な観測」の観点から、観測センサや衛星バス、地上設備について共同で開発する。

以上